

第 27 回愛岐処分場専門家会議 議事要旨

委員

猪子石工場から愛岐処分場に搬入された飛灰処理物の鉛の溶出量が基準値を超過したため、測定を年 4 回から年 12 回に増やした件について、測定回数を増やしてからは一度も溶出量の超過は起こっていないという理解でよいのか。

事務局

はい。

委員

新しく改築する建物に伴って、既存施設の跡地利用はどうなっているか。

事務局

現在は検討を進めている段階であり、まだ報告できる内容にはなっていない。

委員

改築スケジュールについて、令和 4 年度の末に稼働開始のように見えるが、具体的な日程は決まっているのか。

事務局

資料では浸出水処理施設の改築スケジュールとして令和 4 年度中に稼働予定となっているが、稼働予定が遅れる見込であり、令和 5 年度末には新しい浸出水処理施設を稼働させたいと考えている。

委員

どのような理由で遅れているのか。

事務局

土木工事を発注したところ応札者がいなかったため、入札のやり直しを行ったため。

委員

改築が遅れている理由については理解した。慌てて切り替えると危険もあるため、季節等を見ながら安全に切り替えができるようにしてほしい。また、新しい施設が稼働するときに、エネルギーシステムや排水システム等の施設全体のモニタリングを細かくしながら、安全に切り替えていただくということを配慮していただきたい。

委員

埋立量の減少している理由が新しい施設ができた等の技術の進歩によるものであるが、同時に市民一人一人のごみ減量の意識を高めていくことが非常に重要であると思う。市民に向けた取り組みとして、学生向けに処分場の見学等もされているが、一番ごみを分別する機会が多い大人向けにも見学等の企画をしているのか。

事務局

現在、大人の方を対象としたプログラムは行っていないが、保健環境委員の方が定期的に見学に来られている。

委員

諏訪町の集落内井戸について、井戸は諏訪町内にどれくらいあるのか。

事務局

諏訪町内で 15 か所である。

委員

この測定結果はその中の 1 か所ということか。

事務局

代表的な部分として 1 か所を継続的に調査している。

委員

愛岐処分場の浸出水処理施設は、以前、浸出水の流出事故があった施設であるが、改築事業にあたり流出事故への対応や配慮はされているのか。

事務局

浸出水が漏れ出さないような仕組みは新たに考えている。例として、浸出水処理施設の周りには、万が一ひび割れ等で施設から浸出水が漏れ出しても、それを受け止めるために U 字溝を新たに設置している。

また、改築により施設の場所が変わって浸出水送水管が短くなるため、事故が起こる確率は少なくなると考えられる。放流水送水管は長くなるが、こちらを通るのは放流可能な状態まで処理された水であるため、万が一破損したとしても問題はないと考えている。

委員

そのような対策や他にも配慮したことがあれば、事業目的の補足として記載した方がよいのではないか。

事務局

次回報告には記載する。

委員

鉛の溶出量が基準値を超過した焼却灰を搬入した件について、どのくらいの量を搬入したのか。

事務局

搬入された量は 73 トンである。

委員

73 トン全てが超過していたわけではなく、その中の一部が超過していたという理解でよいのか。

事務局

焼却工場で測定しているのが月 1 回のため、超過したのがわかった段階で搬入されていたのが 73 トンである。

委員

超過の理由はわかっているのか。

事務局

焼却工場で重金属固定剤を用いて焼却灰に含まれる重金属類を処理しているが、重金属固定剤の添加量が不足していたため、鉛の溶出量が大きくなったと考えられる。

委員

現状では、その点には注意して運営されているということによろしいか。

事務局

はい。

委員

73 トンであれば問題ないと思うが、今後数値が上がってくる可能性もあるので、年 4 回の測定で十分だが変化については注視しておいてほしい。

埋立フロー図で令和 10 年度の例を出されているが、名古屋市の構想としては北名古屋工場が全量資源化したように、今後改築する工場も資源化工場にすることで埋立量を減らすことを考えているのか。

事務局

古くなった工場を順次改築していく予定ですが、全工場を資源化することは現段階では決まっていない。焼却灰の資源化には、北名古屋工場以外にも民間の資源化施設でも資源化を行っているため、それらを利用して愛岐処分場の埋立量を減らしていきたいと考えている。

委員

愛岐処分場の埋立量が減ると、覆土の比率や量はどうなるのか。

事務局

覆土については、3m埋立てた後に 50 c m覆土を被せることを繰り返すため、覆土の量や比率については変えることは考えていない。

委員

改築前の浸出水送水管が通っていたところに、改築後の放流水送水管が通るような形になっているが、送水管は使いまわすのか。

事務局

送水管については、新規で作り直す予定である。